



作業療法士の立場から 災害支援活動に参加して

作業療法士 千賀 将

3月11日に発生いたしました東日本大震災において、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。また被害を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げます。

私は3月11日地震があったとき、東京に移動しようと名古屋駅に向かっておりました。名古屋駅に着くと新幹線は運休していて何事かと待合室のテレビを見ていると次々に海岸線に押し寄せる津波の映像が流れていました。その信じられないような光景を目の当たりにし、被害の状況を伝える報道に胸を痛めました。そして今回当院から災害派遣にリハビリテーションスタッフが派遣されることを知り、参加を決意いたしました。

災害派遣は4月6日から4月9日まで行われ、避難所などの巡回は7日と8日に行われました。避難所では生活不活発病によって生活機能が低下する高齢者が出る恐れがあるといわれています。実際に巡回した避難所では高齢者もたくさん避難されていて、日中あまり活動せず横になっている方もたくさんいらっしゃいました。各避難所には、避難者の健康状態をチェックする保健師が配置されていました。リハビリテーションの支援は保健師からの依頼を受けて実施しました。生活不活発病の恐れのある高齢者の運動機能の評価、動作の確認及び指導、運動指導などを行いました。支援させていただいた高齢者の中には

地震の影響か心理的に運動をするような余裕のない方もおり、対象者の心理状態も確認しながらの支援となりました。

今後のリハビリテーションの支援の課題としては、(甲)保健師や地域の病院など各職種との連携を深めて避難者の生活不活発病を予防する、(乙)避難所でも安心してリハビリテーションを行える環境づくり、(丙)派遣されるスタッフが変更してもリハビリテーションが継続して行えるよう申し送りシステムを構築することなどが考えられます。

当院がある愛知県も東海地震の恐れがあると言われていています。リハビリテーション科においても有事に備えてどのような行動をとるのか、シミュレーションをして備えていく姿勢が重要であると感じました。



震災の爪痕を目の当たりにして